羽工高新聞

第136号

発行所
石川県羽咋市西釜屋町
石川県立羽咋工業高校
TEL (0767) 22－1193
編集兼発行
羽咋工高生徒会新聞部

第54回卒業式挙行

祝　卒　業

情報にどう向き合うか！

校長　塩田憲司

さて皆さん、好きなTV番組は何でしょうか？今はTVだけでなくインターネットで見る人も多いのかもしれませんが、様々な番組やプログラムが溢れています。私が好んで見る番組(ジャンル)の一つに料理番組があります。

料理人の手によって様々な材料や調味料が組み合わされ、最後に美しく盛りつけされた料理(作品)が完成します。出来上がったおいしそうな料理の味や姿にも興味が湧きますが、材料の組み合わせ方、料理の手順・段取り、道具の使い方など、料理人が見せる仕上げまでのプロセスを見ていくのがとてもおもしろいと感じます。実際に私も料理をする事が好き(得意？)で、休日には台所に立つことが多くあります。妻はレシピ本やインターネットを見て料理を作ることが多いようですが、私は冷蔵庫を開けてそこにあるものを見て何が出来るかなと考えます。また、スーパーなどに出かけても本日の安いおすすめ品を使って何が出来るかなと思ったりもします。これが食べたい、これが作りたいので材料を揃えるというより、そこにある材料から何が作れるかを考え、その段取りを考えるのが楽しいと思います。妻は時々「あなたの方が私より料理が上手いと思う」と言います。人は褒めるとさらに動くことを知っているのでしょう。一枚上手(うわて)です。

ここまで私の関心事について書きましたが、皆さんに何を伝えたいかというと、キーワードは「情報を編集する力」です。長年学校教育に携わっておられる教育改革実践家の藤原和博さんは「情報編集力」について、講演や著書の中で次のように語っておられます。(本校の先生方には昨年度の四月職員会議でお話をしました。)

『二十一世紀に入ってもう十数年以上が経過し、すでに日本は「成長社会」から「成熟社会」にシフトしている。二十世紀後半の日本、とりわけ高度経済成長を支えてきたのは「情報処理能力」に優れた人々。「情報」を処理する力とは決められたルールの中でいち早く「正解」を導き出す力。例えるなら、ジグソーパズル。全体の絵柄が決まっていてそれぞれのピースがはまる場所、つまり正解が一つしかない場合に発揮できる力。ところが成熟社会を迎えた二十一世紀になると価値観の多様化・複雑化が進み、それまでとは違う能力「情報編集力」が求められようになってきた。例えるなら、おもちゃのレゴを組み立てるときに求められる力。正解が決まっているジグソーパズルとは違ってレゴの正解は一つではない。同じ材料を使っても全く異なったものが生み出されていく。自分達の周囲に溢れている様々な情報を集め、関連付け、新しい課題を発見したり、何かを創造したりすること。それが「情報編集力」である』と。

皆さんがこれから踏み出すことになる社会は、今後、どんなふうに変化していくのでしょうか。三年生の中には既に自動車免許を取得している人もいると思いますが、自動車分野一つとっても、近い将来に自動運転技術が私たちの社会生活に大きく浸透しているかもしれません。(私が免許を取った時代はAT車もまだ普及していませんでした。)また、自動化に関連して様々な分野で新しい技術(情報)が創造され、組み合わされ、進化していきます。また、インフラ整備、運送システム、法律、保険など自動車以外の分野にも新たな仕組みやビジネスが登場してくるのかもしれません。

そして、私達の営みの中での「情報」というのは、知識や素材や技術というものだけではなく、そこに関わる人間の心情も含まれると私は思います。一人だけの仕事はありません。多くの人との関わり合いが求められる仕事では、人々の心情も「情報」の一つだと思います。情報にどう向き合うか。人々の心情にどう向き合っていくか。このことも社会や家庭で大切にしなければなりません。

最後に、皆さんへの期待です。皆さんは、いずれ、職場や地域社会の中でおのおのに役割を担っていくことになりますが、是非、それぞれに直面する場面において、リーダー的な存在になることに躊躇しないでほしいと思います。職場や地域社会では何人かの単位であるいは数十人の単位で仕事をする場面があります。また、それぞれに編成された小チームで役割を分担したり連携したりしながら仕事をする場面もあるでしょう。「自分はこう考える、自分について来い」というタイプのリーダーシップもあるかもしれませんが、仲間の話(情報)に耳を傾け、意見(情報)を引き出したり、対立点や共通点を明らかにして意見(情報)を調整して、チームワークにしていくという、リーダーシップもあります。これもまた、「情報を編んで一つの方向性、エネルギーを作る編集力」という見方もできます。是非、そんなリーダーシップを発揮できる人に、これからも成長し続けていってください。あと一ヶ月足らずで新年度。頑張っていきましょう、チーム羽工！

生徒会の仕事

教諭　荒木和広

現役の高校生のころ「学校は友達に会いに行くところだと思っていた。」と、ラジオでタレントが話している。確かに、卒業生の昔語りは、友達と楽しんだ学校祭や部活動で仲間と練習したことが熱く語られる。

昨年、私は六十歳になった。還暦を記念して中学や高校の同窓会・クラス会が行われた。赤いチャンチャンコを着せられたおじさんとおばさんたちの集いは記念写真の撮影からはじまる。写真の仕上がりにはまったく興味がない。食事を共にして繋がりあえるのは、あの三年間の絆である。現在の仕事や地位、自慢はいらない。ただあの時の未熟だった三年間、仲間と過ごした時間が懐かしいのである。

縁あって、教員として働かせていただいた、その多くがクラス担任と生徒会の仕事である。クラス担任の仕事は私を先生にしてくれた。生徒会の仕事は学校を楽しくしてくれた。学校の楽しさは生徒会活動にあるといってもいいくらいだ。

生徒会の仕事は思い出づくりである。生徒会行事、部活動、ボランティア、リーダー育成の面から述べる。

まず、生徒会行事はクラスの一体感をつくり友情、絆が生まれる。クラスの一員として自己肯定感を持つことができる。生徒のときは面倒くさく感じることも、歳月を重ねると懐かしく思い出される。上手くいかなかった学校祭のネタ、合唱や演劇、ステージ企画のどれも、懸命にステージに立った経験が一生残る。私も滑ったせりふが恐ろしくよみがえるときがある。快感である。

つぎに、部活動である。部活動は、心身の健康と人生を楽しむキャリアづくりである。部にはチームとしての目的がある、その取り組むエネルギーがそのまま学校の勢いをつくる。以前、ラグビーの応援で大阪の花園ラグビー場へ応援に行った。ルールは知らなかったが、バスの中で教えてもらった。初めてみる試合は、恐ろしい程の迫力があった。タックルの激しさ、展開の速さに驚いた。選手の頑張りは応援に行った生徒、保護者、教員を一つにしてくれた。

そして、ボランティアである。活動を通して社会貢献や地域との交流ができる。「何か災害があった時は高校生が頼りだ。」と聞いたことがある。有事の際、学校が避難所になり、物資の運搬、配達、清掃、統治、子どもたちの相手など、高校生に頼らなくてはならないからだ。

最後に、リーダーの育成である。チーム羽工は大きな家族のようなものである。家族は、同じ屋根のした、それぞれが目標をもって助け励まし合いながら暮らしている。成功すれば認め喜び合う、そこには自分の居場所がある。そんな家族のような学校のリーダーとなって盛り上げて欲しいのである。やりがいのある挑戦である。羽工のみんなが支えてくれる。臆することはない。

以上、高校生活はわずか三年間であるが、一生記憶に残る経験を、生徒会活動を通してつくりあげて欲しい。「学校には素晴らしい仲間がたくさんいる、会いに行こう！」

2017 課題研究公開発表会

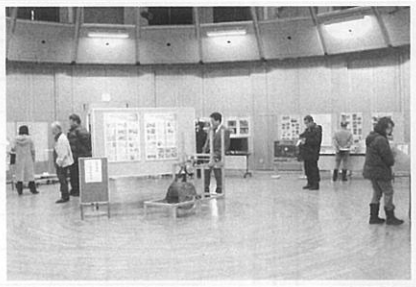
平成29年度　課題研究公開発表会各科テーマ

科名	発表テーマ
電子機械科 電気科合同班	専門高校等における産学連携人材育成事業 ～小水力発電への取組～
電子機械科	技能検定・機械加工 ～普通旋盤２級への挑戦～
	マイコンカーの製作
	台車の製作
電気科	相撲ロボットの製作
	電気工事工法の研究
	掃除ロボットの製作「通信技術の活用」
建設造形科〈建築〉	植物を楽しむ家「三つの提案」
建設造形科〈土木〉	ブロック擁壁の製作
建設造形科〈デザイン〉	光のオブジェ制作

平成三十年一月二十七日(土)にコスモアイル羽咋で課題研究公開発表会がおこなわれました。

各科すばらしい発表がおこなわれ、三年間の集大成を感じる内容でした。

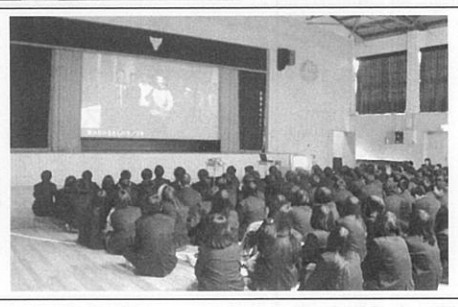
また、当日は多くの保護者や企業、近隣の中学生に見学にきていただきました。



三年生を送る会

平成三十年二月九日(金)に三年生を送る会が第一体育館で開催されました。

はじめに在校生代表の表来晴さんから、卒業生代表の大森望君に記念品として印鑑が贈呈されました。その後生徒会執行部が制作したビデオレターが上映されました。内容は各部活動が



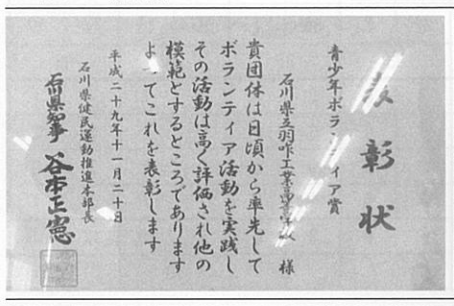
三年生に対する感謝の気持ちをリレー形式でつないでいくものでした。非常に温かい雰囲気で会場が包まれました。

最後に三年生を代表して大森君がお礼の言葉を述べました。

青少年ボランティア県知事賞受賞

平成二十九年月十一日二十日(月)におこなわれた授賞式で、谷本正憲石川県知事から表彰を受けました。

本校の日頃からの活動に対して高く評価されました。



彰状

青少年ボランティア賞

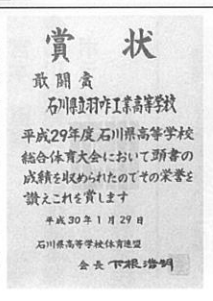
石川県立羽咋工業高等学校　様

貴団体は日頃から率先してボランティア活動を実践しその活動は高く評価され他の模範とするところであります よってこれを表彰します

平成二十九年十一月二十日

石川県健民運動推進本部長　石川県知事　谷本正憲

石川県高校総体「敢闘賞」受賞



賞状

敢闘賞

石川県立羽咋工業高等学校

平成29年度石川県高等学校総合体育大会において所書の成績を収められたのでその栄誉を讃えこれを賞します

平成30年1月29日

石川県高等学校体育連盟　会長　中根澄明

平成三十年一月二十九日(月)におこなわれた、石川県高体連表彰式で「敢闘賞」を二年連続で受賞しました。

この賞は十二学級以下及び生徒数五百名以下の最上位校に授与されます。多くの部活動が高校総体での活躍した結果です。来年度も受賞を目指しましょう。